



▲ 「いやさか広場」で披露された大柵木獅子舞

4月20日、21日 宇出津曳山祭り

4月20日、21日

春の街に木遣りが響きます。

宇出津の街に春を呼ぶ、曳山祭りが4月20・21日の両日行われました。五百年の歴史があるこの祭り、酒垂と白山の2台の曳山が街中をくまなく回ります。山車はきらびやかな人形に飾られています。今年、酒垂曳山は「竹取物語 昇天の夜」、白山曳山は「牛若丸の大ナマズ退治」を題材に制作しました。

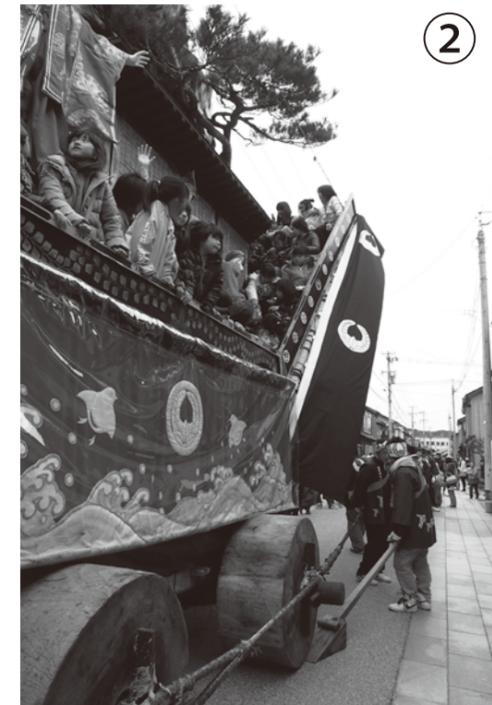
子どもたちにとっては、いつもと違う高い視点で、住み慣れた街を眺めることができる、待ちに待った日です。大人の手を借りながらはしごを登り、一番高い場所を目指して駆け上ります。

あいにく20日土曜日は、途中から雨模様。季節外れの冷たい雨に、曳山の歩みもゆっくりと感じられました。

明けて2日目、日曜日の午後は、天気が急速に回復、道路も乾き、青空も見えるようになりました。午後5時ごろ、宇出津港「いやさか広場」に2台の曳山が到着。大柵木獅子舞保存会が獅子舞を披露しました。小学生5人がリズムカルな動きで獅子に対峙（たいじ）、大きな拍手を浴びました。



①晴れ間が出て、子どもたちも笑顔に。②いよいよ祭りの始まり。ゆっくり動き出した山車。③春らしく着物でおしゃれ④完成したばかりの南北道路を山車が通過する。⑤山車には舵がなく、人力で豪快に方向転換する。



空に輝く能登半島 ～満天星・小惑星図鑑～

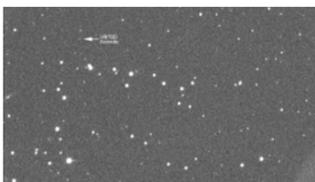
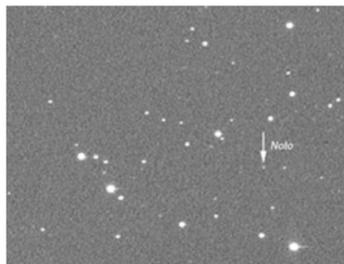
満天星の天文台には県内最大の60センチメートル反射型望遠鏡があります。
これまでに4個の小惑星が発見され、それぞれ能登にちなんだ名前がつけられました。

(20625) Noto 「能登」

1999年10月9日発見、2001年5月9日命名登録

満天星で一番最初に命名された小惑星。命名の元になったのは、もちろん能登半島の「能登」です。1889年に能登を旅し、翌々年に出版したパーシバル・ローウェルの著書「Noto - 能登・人に知られぬ日本の辺境」にもちなんで命名されました。

おひつじ座と「Noto」

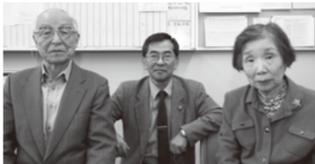


(49702) Koikeda 「小池田」

1999年11月4日発見、2003年5月1日命名登録

金沢の天文愛好家、小池田忠蔵・洋子夫妻にちなんで命名。忠蔵さんは1962年から2002年の間、金沢星の会会長に就任。愛好家の活動を支えました。洋子さんは、教員生活を経て、半世紀以上太陽の黒点観測などを続けています。長年の活躍に加え、今なお活動を続ける二人は、満天星職員にとってもあこがれの存在です。

小池田さんは「土川さんにお礼を言いたい」と、満天星20周年式典にも訪れました。感想を聞いたところ、「大変うれしく、(金沢星の会から) 学生が育ていたのでご褒美をいただいたのでは」と控えめに当時の気持ちを教えてくれました。

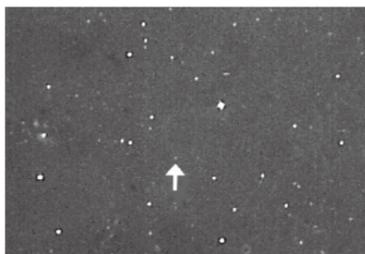


写真上：「Koikeda」
写真下：左から小池田忠蔵さん、家教授、小池田洋子さん

(73782) Yanagida 「柳田」

1994年10月15日発見、2004年9月29日命名登録

一番最初に発見された小惑星。満天星があった当時の柳田村から命名されました。当時は、フィルムカメラで撮影し、現像して星を確認しました。他の星の位置関係から、軌道や位置を確認する地道な作業です。フィルムを顕微鏡で観察する作業を繰り返しますが、作業時間が長いと熱でフィルムが膨張し、星の正確な位置が掴めなくなることもあったそうです。



(91890) Kiriko Matsuri 「キリコ祭り」

1999年11月4日発見、2006年2月23日命名登録

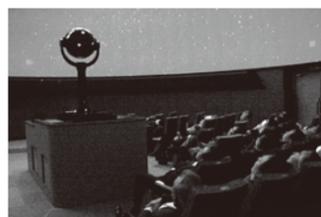
能登町誕生の年に命名権が得られたため、町民に名前を募集したところ、能登の祭りの象徴「キリコ」が多く寄せられました。「キリコ」は人名などと混同しやすく、単独では使用できないことから、同じく応募の多かった「祭り」が加えられました。



こどもの日 プラネタリウム小中学生無料！

20周年を迎えることができた感謝の気持ちとして、5月5日のこどもの日、小中学生のプラネタリウム入場料を無料にいたします(通常300円)。皆さんお誘い合わせのうえ是非お越しください。

投影時間は午前10時から1時間ごと、最終投影は午後4時です。時間に遅れると入場できません。遅くとも開始5分前までにはお越しください。満席の場合は次の回までお待ちいただきます。高校生以上の方は通常料金です。



星の観察館「満天星」 ☎ 76-0101

20年目の満天星

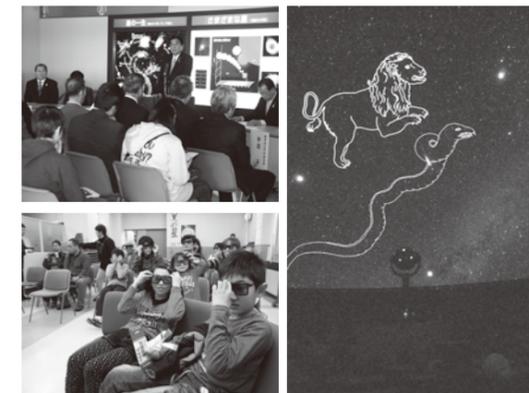
平成5年4月15日、星の観察館「満天星」が開館しました。入館者は延べ20万人を超え、星空の案内人として第一線で活躍してきました。今年は成人式。この節目に、これまでの出来事を振り返ります。

4月14日①満天星20周年記念式典 関連行事に多くの人参加

式典会場となった満天星ロビーには、立ち見も含めて約50人が集まり、20歳の誕生日を祝いました。

式辞で持木町長は「学校教育と生涯学習の拠点で、癒しも提供してくれる施設。20周年を期にたくさんの方に利用していただきたい」と今後の発展に期待を寄せました。

プラネタリウムでは、満天星が誕生した日の星空が投影され、観客は思い思いに20年間を振り返りました。



宇宙の起源に迫る巨大プロジェクト

記念講演では、国立天文台の家正則教授が「30m望遠鏡で見る宇宙」と題し、TMT計画について紹介しました。TMTは直径30mの反射型望遠鏡です。完成すれば宇宙の起源を知る大きな一歩となります。

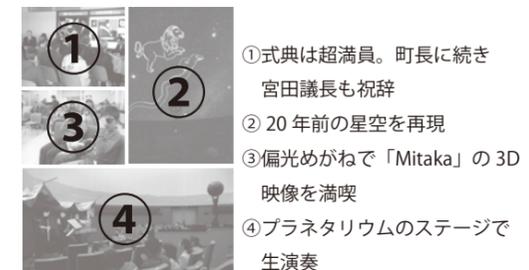
計画の礎となった巨大プロジェクト「すばる望遠鏡」の説明もありました。



癒しのイベントで観客を魅了

レクチャールームでは、星のシミュレーションソフト「Mitaka(ミタカ)」で表示された3D立体画像で、宇宙旅行を体験。

プラネタリウムでは、今本晶子さん(フルート)、池田恵美さん(ヴァイオリン)、櫻町総子さん(ピアノ)の3人が星空の動きに合わせて生演奏を披露。ドームに朝日が輝くと、夢のひとつが終了しました。



- ①式典は超満員。町長に続き宮田議長も祝辞
- ②20年前の星空を再現
- ③偏光めがねで「Mitaka」の3D映像を満喫
- ④プラネタリウムのステージで生演奏

満天星20年間のできごと&主な天文現象

- 1987年 旧柳田村が環境庁(当時)により「星空の街」に認定される
- 1992年 2月26日、満天星着工。11月18日、県内最大・60センチ反射型望遠鏡の据え付け
- 1993年 4月5日、満天星開館。隣接地に望遠鏡付き「アストロコテージ」完成
- 1994年 7月19日夜、シューメーカー・レビー第9彗星木星衝突のビデオ撮影に成功。10月、初の小惑星発見。
- 1996年 3月、百武彗星が地球に最接近
- 1997年 ヘールボップ彗星接近
- 1999年 10月から11月にかけて3個の小惑星発見
- 2001年 5月、小惑星に初めて命名登録。第一号は「Noto」(能登)。10月には、土星が月に隠れる「土星食」撮影
- 2003年 小惑星に「Koikeda」(小池田)と命名。11月には、しし座流星群が大出現
- 2004年 小惑星「Yanagida」(柳田)命名登録
- 2006年 小惑星「Kiriko Matsuri」(キリコ祭り)命名
- 2011年 プラネタリウム機器を更新。最新の機種「パンドラ」を導入し、7月にリニューアルオープン
- 2012年 太平洋側で金環日食。満天星でも早朝から多くの人々が部分日食を観測